

バッテリーライフマネジメント
ユーザガイド
Ver. 1.0.0

2013/05/08
株式会社グローバルサイバーグループ
TEL 06 (6351) - 3929

目次

1. バッテリーライフマネジメントについて	p. 2
2. 使用方法	p. 3
2.1 動作環境	p. 3
2.2 インストール方法	p. 3
2.2.1 Google Play を用いた方法	p. 3
2.2.2 APK を用いた方法	p. 3-4
2.3 バッテリーライフマネジメント設定画面	p. 5
2.3.1 通知機能オン/オフ	p. 5
2.3.2 LTE エリアチェック間隔	p. 5
2.3.3 サーバ接続間隔	p. 5
2.3.4 位置情報取得方法	p. 6
2.3.5 サーバ同期実行ボタン	p. 6
2.3.6 LTE 利用エリアチェックボタン	p. 6
2.3.7 パーソナルオフエリア登録ボタン	p. 6
2.3.8 パーソナルオフエリア削除ボタン	p. 6
2.3.9 LTE 設定画面を開くボタン	p. 7
2.3.10 LTE 設定オン	p. 7
2.3.11 LTE 設定オフ	p. 7

1. バッテリーライフマネジメントについて

バッテリーライフマネジメント（以下 BLM という）は、LTE の利用エリアから、良好なエリアと良くないエリアを判断し、良好なエリアの位置情報を BLM アプリ搭載ユーザ間で共有し、これらの情報を元に手動にて、LTE 通信の利用可否を行うアプリです。

またこのアプリを利用することにより、相当量の電池消費を抑える事が出来ます。

このアプリをインストールすると、LTE エリア内外を判定し、その結果をステータスバーのアイコンで通知します。

- ・赤い LTE アイコンが表示されている場合は、LTE 利用可能エリア



- ・グレーの LTE アイコンが表示されている場合は、LTE 利用可能エリアではないか、LTE 利用実績 (LTE 電波強度情報) がない



以後、任意で設定した時間毎にその LTE エリアの位置情報と LTE 電波強度を記録します。LTE エリアチェック間隔を未設定の場合は、自動的に 15 分毎にチェックを行うように設定されています。

また、任意で LTE 通信をオフにする機能 (パーソナルオフエリア機能) も搭載しております。LTE と 3G の切り替えが頻繁に起こるようなエリアに滞在する場合などにパーソナルオフエリアに登録しておくことで、相当量の電池消費を抑える事が出来ます。

- ◎ 利用可能エリアかどうかは、LTE エリアチェックを行う事により、判定しています。LTE エリアチェックを行った位置から半径 200m (一般配布向けバージョンでは、20m 程度に縮小する予定) の範囲にて、利用可否を判定しています。
- ◎ BLM アプリのアイコンが表示されない場合は、以下の点を確認してください。
 - ・バッテリーライフマネジメントアプリの設定画面で「通知機能オン/オフ」が「オン」になっている
 - ・インストール直後の BLM アプリの設定画面のメニューから「サービスを開始」を行っていない

2. 使用方法

2.1 動作環境

Galaxy S III (Android 4.1)

SH-02E (Android 4.1)

2.2 インストール方法

インストール方法は次の2種類があります。正式公開後は Google Play で公開しインストールしますが、現在は APK を用いて直接インストールします。

2.2.1 Google Play を用いた方法（現在対応中。）

1. Google Play から「バッテリーライフマネジメント」をダウンロードし、インストールします。
2. ステータスバーの通知アイコンを選択するか、アプリ一覧画面から「バッテリーライフマネジメント」を実行し、バッテリーライフマネジメントアプリ設定画面を開きます。
3. メニューボタンを選択し、「サービスを開始」を選択します。

◇ 次回端末起動時からは、端末起動時に自動でサービスが開始されます。◇

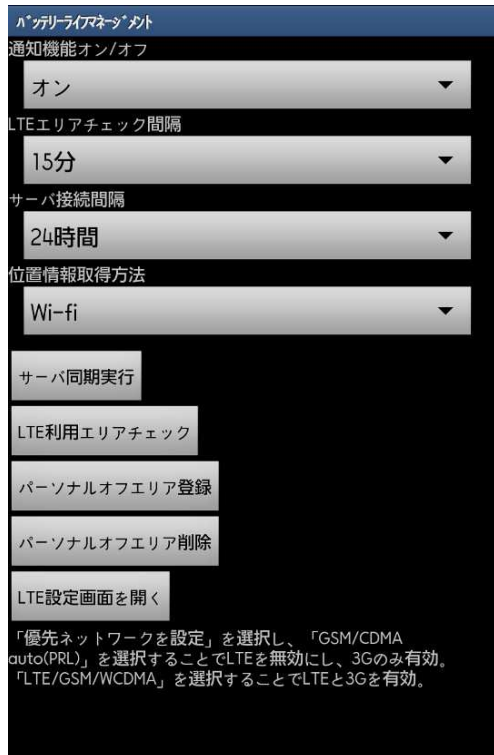
2.2.2 APK を用いた方法

1. 「設定」-「セキュリティ」の画面を開き、「提供元不明のアプリ」の項目にチェックを入れます。
2. LteChecker.android.apk を端末にコピーします。
3. 任意のファイラを用い、LteChecker.android.apk を実行します。
4. インストール画面で「インストール」を実行します。
5. インストール完了画面で「開く」を選択するか、アプリ一覧画面から「バッテリーライフマネジメント」を実行し、バッテリーライフマネジメントアプリ設定画面を開きます。
6. メニューボタンを選択し、「サービスを開始」を選択します。



◇ 次回端末起動時からは、端末起動時に自動でサービスが開始されます。◇

2.3 バッテリーライフマネジメントアプリ設定画面



2.3.1 通知機能オン/オフ

ステータスバーでLTE利用可能エリア通知の要・不要を設定します。

2.3.2 LTE エリアチェック間隔

LTE利用可能エリアかどうかのチェックを行う間隔を設定します。

※ === 記録されるデータについて === ※

- ・ 位置情報(緯度経度、位置情報の精度)
- ・ 電波強度
- ・ キャリア情報(キャリア名、仕様電波帯域(現在未設定))
- ・ 情報記録日時

☆ ユーザを特定する情報は送信していません。☆

2.3.3 サーバ接続間隔

LTE利用可能エリア情報のダウンロード、アップロードを行う間隔を設定します。

2.3.4 位置情報取得方法

LTE 利用可能エリアを判定するのに利用する位置情報を Wi-fi、GPS どちらを利用して取得するかを設定します。

また GPS を設定した場合、位置情報の精度は高くなりますが、wi-fi に比べて、バッテリー消費量が大きくなります。

2.3.5 サーバ同期実行ボタン

任意で、LTE 利用可能エリア情報をダウンロード、アップロードします。

2.3.6 LTE 利用エリアチェックボタン

現在位置が LTE 利用可能エリアかを判定し、結果を通知します。

LTE アイコンが赤くなれば LTE 利用可能エリア、グレーになれば LTE 利用不可です。

また LTE 電波強度を判定基準にしている為に LTE 電波強度が非常に弱い場合でも、LTE アイコンが赤く表示されることがあります。

この場合は、FOMA ハイスピードエリア等の通信方式に切り替えて、お使い頂く事をお勧め致します。

2.3.7 パーソナルオフエリア登録ボタン

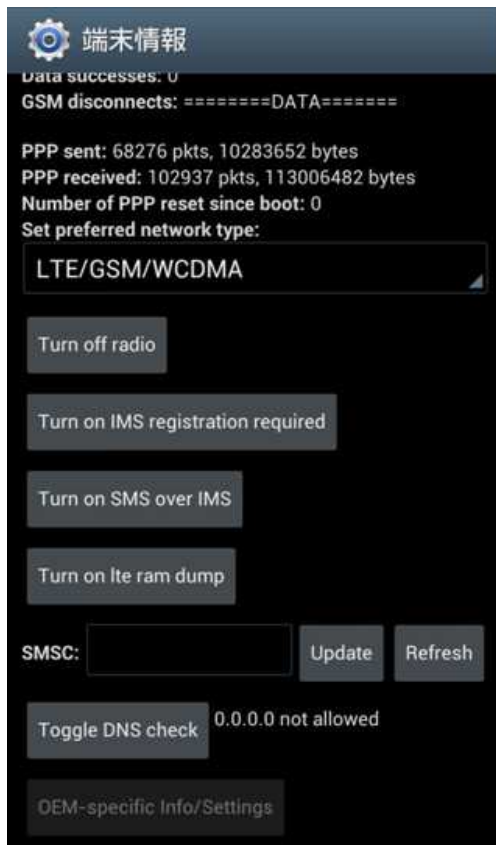
現在位置をパーソナルオフエリアに登録します。

2.3.8 パーソナルオフエリア削除ボタン

現在位置のパーソナルオフエリアを削除します。

2.3.9 LTE 設定画面を開くボタン

LTE 設定画面を開きます。この画面は端末ごと、OS のバージョンごとに異なる可能性があります。以下では Galaxy S III (Android 4.1.1) での画面で解説します。同じ画面が日本語で表示される端末もあります。



2.3.10 LTE 設定オン

通常 (LTE エリア内) は、「Set preferred network type: (日本語の場合は優先ネットワーク)」を選択し、「LTE/GSM/WCDMA」を選択します (LTE と 3G が有効)

2.3.11 LTE 設定オフ

LTE エリア外では、「Set preferred network type: (日本語の場合は優先ネットワーク)」を選択し、「GSM/CDMA auto (PRL)」を選択します (LTE が無効となり、3G のみが有効)
また LTE 電波強度が非常に弱い場合などにも、「GSM/CDMA auto (PRL)」を選択します。